

令和3年度 活動計画

I 活動目標

- 1 看護師職能の活動を通して、公衆衛生の向上と県民の健康保持・増進に寄与する
- 2 病院看護師の役割の明確化と資質の向上を図ると共に働きやすい環境づくりを支援する

II 公益目的事業

1 活動内容

- 1) 医療福祉における看護師の資質向上のための研修会等の企画・実施
- 2) 看護職の交流を通して情報交換し、看護職の活性化を図る

2 活動計画

- 1) 定例会：年 11 回
- 2) 研修会：年 2 回、延定員 200 名

III 会員支援事業

1 活動内容

- 1) 令和2年度事業報告、令和3年度事業計画の説明

2 活動計画

- 1) 職能集会・講演会：年 1 回、定員 100 名

公益目的事業（研修会）

項 目	内 容	開催日	場 所	募集人数
研 修 会	テーマ：「よりよい意思決定に向けたナッジの活用 ～看護現場をよくするしかけ～」 講 師：慶應義塾大学看護医療学部／大学院健康マネジメント研究科 准教授 小池 智子氏	R3. 10. 21(木)	神奈川県 看護協会	100 名
	テーマ：「医療メディエーションの基礎」 講 師：山梨大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 特任教授 荒神 裕之氏	R4. 1. 17(月)	同上	100 名

会員支援事業

項 目	内 容	開催日	場 所	募集人数
職能集会	令和2年度看護師職能委員会 I 活動報告 令和3年度看護師職能委員会 I 活動計画	R3. 7. 31(土)	神奈川県 看護協会	100 名
講 演 会	テーマ：「ナースがやりがいをもって働き続けられる働き方改革」 講 師：社会医療法人明和会医療福祉センター サステイナブル本部 統括主幹 竹中 君夫氏			

看護師職能委員会 I 研修（講演会）実施報告

研修（講演会）テーマ	ナースがやりがいをもって働き続けられる働き方改革		
主 催	看護師職能委員会 I		
講 師	竹中 君夫氏（社会医療法人明和会医療福祉センター サステイナブル本部 統括主幹）		
開 催 日 時	令和 3 年 7 月 31 日（土）13:30～16:30		
目 的	やりがいをもって働き続けるための方法を考える		
内 容	講演		
場 所	神奈川県ナースセンター研修室（神奈川県総合医療会館 5 階） （Zoom および会場によるハイブリッド方式）		
参 加 対 象	看護職	参 加 人 数	104 名 （会員 98 名・非会員 6 名） 会場：40 名、Web 参加：64 名
まとめ・評価	1. アンケート回収 36 枚 回収率 41%（委員除く） 1) 会員：32 名 2) 非会員：4 名 2. 職種 1) 看護師：34 名 2) 准看護師：1 名 3) 助産師：1 名 3. 研修会を知ったきっかけ 1) 看護協会からの案内チラシ：22 名 2) 看護協会ホームページ：6 名 3) 上司からの情報：8 名 4. 参加動機 1) 自ら進んで：32 名 2) 上司の勧め：3 名 3) ホームページを見て：1 名 5. 感想 1) 非常に良かった：13 名 2) 良かった：19 名 3) 普通：0 名 4) やや期待はずれ：4 名 5) 期待外れ：0 名 6. アンケート内容 ・働き方改革と職場の業務の調整を悩んでいたため、本日の講演会を聞き大変参考になった。 ・スタッフレベルでの取り組みが分かる講義だと思っていたが、師長や看護部長向けの内容と感じた。 ・法律も大切だが、今頑張っている看護師をいかに定着させる働き方を考えることが大切。それがメンタルヘルスにも繋がると感じた。 ・大変分かりやすい内容で、先生の話もユニークで興味深かった。 ・研修を受講して知らなかった事を知る機会になった。組織の上層部に受講してもらいたい内容だと思った。 7. 評価 ・働き方改革が進められる中、法律のみに捉われることなく看護職がやりがいをもって、働き続けられる仕組み作りや考え方に関する示唆を得た。 ・具体的な成功事例を用いた講演で、優しい人材を育成し、長く勤務できる環境作りに繋がる学びが深まった。 ・アンケート結果でも、80%以上が良かったと感じており受講者のニーズにも応えられたと考えられる。 ・感染対策に努めハイブリット方式を導入し、7 割が Web での参加であった。今後も感染対策を考慮した開催を継続していきたい。		



看護師職能委員会 I 研修（講演会）実施報告

研修（講演会）テーマ	よりよい意思決定に向けたナッジの活用～看護現場をよくするしかけ～		
主 催	看護師職能委員会 I		
講 師	小池智子氏（慶応義塾大学看護医療学部・大学院健康マネジメント研究科 准教授）		
開 催 日 時	令和 3 年 10 月 21 日（木）13:30～16:00		
目 的	問題解決のアプローチ（行動経済学諸理論）の活用を学ぶ		
内 容	講演		
場 所	神奈川県看護協会第 1 研修室（神奈川県総合医療会館 6 階） （Zoom および会場によるハイブリッド方式）		
参 加 対 象	看護職	参 加 人 数	78 名 （会員 75 名・非会員 3 名） 会場：14 名、Web 参加：64 名
まとめ・評価	1. アンケート回収 47 枚 回収率 60.2% 1) 会員：47 名 2) 非会員：0 名 2. 職種 1) 看護師：45 名 2) 准看護師：0 名 3) 保健師：0 名 4) 助産師：2 名 3. 研修会を知ったきっかけ 1) 看護協会からの案内チラシ：24 名 2) 看護協会のホームページ：11 名 3) 友人・知人からの情報：1 名 4) 上司からの情報：11 名 4. 参加動機 1) 自ら進んで：38 名 2) 上司の勧め：9 名 5. 感想 1) 非常に良かった：30 名 2) 良かった：16 名 3) 普通：1 名 4) やや期待はずれ：0 名 5) 期待はずれ：0 名 6. アンケート内容 ・色々な場面でナッジ理論を知ったが、身の回りで様々な利用ができると感じた。 ・職場改善のヒントになった。 ・活用例なども豊富でとても分かりやすかった。 ・Web 選択ができてとてもよかった。 7. 評価 ナッジとは直訳すると「背中を押す」という意味がある。行動科学分野において人々が自発的に望ましい行動を選択するように促す手法である。講義をとおしてこれらの手法を学び、問題解決のヒントを得ることができた。看護現場の業務改善や安全などに活用できる講義内容であった。 アンケート結果でも、99%以上が良かったと感じており受講者のニーズにも応えられたと考えられる。 感染対策予防のためハイブリッド方式を導入し、約 8 割が Web での参加であった。今後も感染対策を考慮し選択式の講演の開催を継続していきたい。		



看護師職能委員会 I 研修（講演会）実施報告

研修（講演会）テーマ	医療コンフリクト・マネジメント～医療メディエーションの基礎～		
主 催	看護師職能委員会 I		
講 師	荒神裕之氏（山梨大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 特任教授）		
開 催 日 時	令和 4 年 1 月 17 日（月）14:00～16:00		
目 的	メディエーションを学び、日常の場面で有益な対話モデルを学ぶ		
内 容	講演		
場 所	神奈川県ナースセンター研修室（神奈川県総合医療会館 5 階） （Zoom および会場によるハイブリッド方式）		
参 加 対 象	看護職	参 加 人 数	156 名 （会員 149 名・非会員 7 名） 会場：17 名、Web 参加：139 名
まとめ・評価	1. アンケート回収 108 枚 回収率 74.4% 1) 会員：103 名 2) 非会員：5 名 2. 職種 1) 看護師：101 名 2) 保健師：4 名 3) 助産師：2 名 4) その他：1 名 3. 研修会を知ったきっかけ 1) 看護協会からの案内チラシ：63 名 2) 看護協会ホームページ：12 名 3) 友人・知人から：3 名 4) 上司から：28 名 5) その他：2 名 4. 参加動機 1) 自らすすんで：82 名 2) 上司の勧め：24 名 3) その他：2 名 5. 感想 1) 非常に良かった：59 名 2) 良かった：44 名 3) 普通：3 名 4) やや期待はずれ：2 名 5) 期待外れ：0 名 6. アンケート内容 ・分かりやすい講義内容で、資料も見やすかった。 ・日々の業務の中で、第 3 者の立場になって、対話を促進する場面が多くあるので、とても参考になった。 ・対話においてのゴールはなく、情報を共有するためのプロセスと捉えるといった説明に、自身の思考が変わった。 ・2 時間では足りない内容だった。事例など、もう少し深く受講したかった。 ・チャットを使用し質問や意見を受け、内容に対して返答してもらえるシステムは良い。 7. 評価 患者と医療者の葛藤は見えにくく、メディエーターの支援によりコンフリクト・マネジメントの実践が医療の現場では重要となる。第 3 者の位置から俯瞰し、相手を承認・共感しながら対話を促進することで問題解決や意思決定を支援していく方法を学んだ。基礎編の研修であり、実践できるようになるためには、個々の研修やトレーニングが必要である。医療安全や苦情対応だけでなく、医療者同士でも認知的コンフリクトが起きた時には、チーム医療を行っていく上でも活用できる内容であった。 アンケート結果でも、95%以上が良かったと感じており受講者のニーズに応えられたと考える。		



令和3年度 活動報告

I 活動目標

1. 看護師職能の活動を通して、公衆衛生の向上と県民の健康保持・増進に寄与する
2. 病院看護師の役割の明確化と資質の向上を図ると共に働きやすい環境づくりを支援する

II 公益目的事業

1 活動内容

- 1) 医療・福祉における看護師の資質向上のための研修会等の企画・実施
- 2) 看護職の交流を通して情報交換し、看護職の活性化を図る

2 活動の実績

項 目	内 容	開催日	場 所	募集人数
定例会	1) 事業の企画・実施・評価 2) 実態調査まとめ	全11回(3月中止)	神奈川県看護協会	委員11名
研 修 会	テーマ:「よりよい意思決定に向けたナッジの活用 ～看護現場をよくするしかけ～」 講師:小池 智子氏(慶應義塾大学看護医療学部・大学院健康マネジメント研究科 准教授) ◆zoom と会場によるハイブリッド形式で実施	R3. 10. 21 (木)	神奈川県看護協会	78名
	テーマ:「医療メディエーションの基礎」 講師:荒神 裕之氏 (山梨大学医学部付附属病院 医療の質・安全管理部 特任教授) ◆zoom と会場によるハイブリッド形式で実施	R4. 1. 17(月)	同上	156名

III 会員支援事業

1 活動内容

- 1) 職能集会・講演会で事業計画を説明し、看護師職能委員会 I の活動を周知する

2 活動の実績

項 目	内 容	開催日	場 所	募集人数
職能集会 講演会	令和2年度看護師職能委員会 I 活動報告 令和3年度看護師職能委員会 I 活動計画 講演会 テーマ:「ナースがやりがいをもって働き続けられる働き方改革」 講師:竹中 君夫氏 (社会医療法人明和会医療福祉センター サステイナブル本部 統括主幹) ◆zoom と会場によるハイブリッド形式で実施	R3. 7. 31 (土)	神奈川県看護協会	104名